

はなかわの風

HANAKAWANO-KAZE
地域連携相談センター広報誌

最終号

- 平成 25年 12月 6日発行
- 発行人：星野充明
- 編集長：綾部潤和
- 企画・制作
花川病院地域連携相談センター
地域連携課

健育会メディカルグループ 理事長賞・ミラクル賞から

医療法人喬成会花川病院が加入する健育会メディカルグループでは、グループ病院・施設の全職員を対象として、「日常業務、非日常業務を問わず質の向上に著しい貢献をした職員に」また、「卓越したチーム医療の実践によって、現代の医学の常識を超えて回復した症例があった場合に」理事長賞、ミラクル賞が授与されます。

今回は7月に受賞した花川病院2・4病棟のミラクル賞の事例をご紹介します（個人情報かわからないように内容を一部変更しております）。
(綾部潤和)

Aさんご夫妻。お二人暮らしです。ご主人は心臓バイパス術を行なったあと、2～3年前から失神をくりかえしていました。そんなご主人を支えていた奥さんも、1年ほど前から家事が大変となり、配食サービスや近くに住むお子さん、ご近所の方の協力を得ながらなんとか生活されていました。

ところが、奥さんが自宅で転倒して腰椎圧迫骨折となり、その後のリハビリ目的で花川病院の4階回復期リハビリテーション病棟に入院となりました。一方、ご主人も失神が重なり、札幌市内の病院へ入院となってしまいました。ご主人の状態が安定したため、自宅に退院するよう話がありましたが、一人では生活できません。困ったご家族から奥さんの入院のご相談をいただきました。そのため、2階医療療養病棟でご主人をお受け入れすることとなりました。

4階に入院した奥さんはリハビリを兼ねて、リハスタッフや看護師、看護補助者が支援して2階に入院しているご主人のところに通えるようにしました。そうすることで、お互いの気持ちの安定をはかることができました。

さて、奥さんの退院の時期が近づき、これからのお二人の生活をどうするか、ご家族とともに話し合いました。Aさんのお子さんは、「もうふたりで暮らすのは難しいのではないかと」話されていました。しかし、Aさんの奥さんが「夫と離れたくない。夫が倒れたとしても、残りわずかだったとしても、ふたりで自宅で暮らしたい」と強い思いを話してくださいました。この思いを受けて、リハスタッフ、MSW、在宅での支援をお願いするケアマネジャーさんとともに、事前のご自宅訪問をしました。そして生活環境を整えたり、在宅を支援するチームのみなさんで病気のリスクを確認する打ち合わせ会を開いたり、緊急時の対応や入浴・日常生活の支援の方法をみんなで検討しました。

7月。奥さんの思いが実現できました。ホームヘルパーの介護や訪問看護による病状管理のサービスを利用しながら「自宅に戻れてよかった」と話されているそうです。

花川病院のホームページ

<http://www.hanakawa-kyouseikai.or.jp/>

石狩市花川南7条5丁目2番地 (0133) 73-5311

高齢者にやさしい安全な食事とは？

10月15日に第7回石狩リハビリテーション・地域連携懇話会をロイトン札幌にて開催いたしました。花川病院では摂食嚥下リハビリについて、チームでのかかわりを行っており、「口から食べられるようになりたい」という患者さんやご家族の希望にこたえられるように、リハビリの提供を行っております。今回は、管理栄養士として高齢者の嚥下問題に着目し、食事でのQOLを高める摂取手段についての研究に取り組んでいる北海道文教大学人間科学部 健康栄養学科の山田美智子先生に講師をお願いして、「高齢者に安全でやさしい食事とは」というテーマで講演していただきました。

◆高齢者の食事



北海道文教大学 山田美智子先生

高齢者が陥りやすい食事として、好きなものしかたべない・少食となる傾向があり、自分でも気がつかないうちに低栄養や脱水となっている人が多く見られます。高齢者にとって必要な栄養管理とは①口から食べる「低栄養予防」②食べる動作で筋肉を動かす「リハビリテーション」③3食食べる「生活リズムの獲得」④誰かと食事する「コミュニケーション」⑤食べる意欲を引き出す「QOLの向上」となってきます。これらをすべて満足させられる食事とはどんなものなのでしょうか？

高齢者には嚥下障害が多く見られ、原因の疾患としては脳血管障害が多数を占めています。摂食困難・咀嚼困難・飲み込みが障害され誤嚥につながる状態です。誤嚥は高齢者の死因の上位に入っている肺炎を引き起こす可能性もあります。

それでも口からおいしく食べるために、施設や病院でもそれぞれの摂食嚥下状況によって普通食からはじまり義歯の不具合やかみ合わせが悪い開口障害がある人への「きざみ食」、嚥む力が弱く食塊を作りにくい人への「ソフト食」、飲み込む力が低下しており丸呑みとなる人への「ミキサー食」などの患者の状態にあった食事の提供がなされています。

◆ある特別養護老人ホームでのおはなし

入所中高齢者の食事満足度調査から、嚥下機能に対処している食事形態や調理形態が、実際の高齢者に「一般食」「きざみ食」「ソフト食」がどのように受け入れられているのかについて調査をしました。その結果、今の食事形態に対して不満ではないものの、見た目として形の残っている「ソフト食」のほうが「きざみ食」よりも満足度が高い結果がでました。また「残食感（口やのどに残っている違和感）」があります

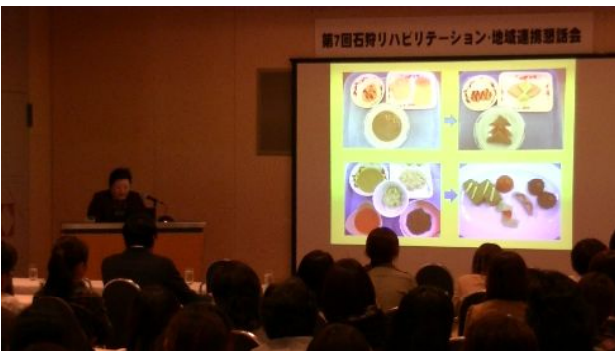
か？」という質問についても、「ソフト食」の人に比べて「きざみ食」の人には残食感があると答えた人がとても多くいました。これは「ソフト食」は口の中でまとまりやすく飲み込みやすいのですが、「きざみ食」はきざんだ食材が口の中に残りやすいからだそうです。

◆ソフト食の位置づけ

山田先生は、「ソフト食の適応としては摂食嚥下の機能低下により、きざみ食の摂取が困難になった人の中から嚥下機能の評価に基づいて決定される。増粘多糖類を入れて加熱形成冷却とひと手間かかるソフト食ではあるが、高齢者にとっては安全で見た目にも、味でもおいしい食事となるので、ぜひ積極的に取り入れていただければ」と話されていました。



◆第7回懇話会を終えて



今回の懇話会は、高齢者の食がテーマであり医師・看護師・医療ソーシャルワーカーだけではなく管理栄養士や歯科医師や歯科衛生士の方の参加もいただき、懇話会後の情報交換会・懇親会でも他職種の方々からお話を聞くととても良い機会となりました。次回は2月ロイトン札幌で開催する予定です。(池田志穂)

◆ところで。

平成25年5月に地域連携センターに着任しました保健師の池田志穂と申します。入院相談・調整を担当しています。着任から医療職としての自分に求められていることを探し続けて早半年経ち、徐々に連携センターにも馴染んできました。しかし方向音痴のため病院訪問では地図は必須です。今回の山田先生のお話の中で軽費老人ホームの敬老会で握りずしを提供したところ、人気ネタランキング1位は「まぐろ」2位「いか」3位「えんがわ」。職員側が柔らかくて人気だろうと思っていた、「ホタテ」や「えび」はあまり人気がなかったそうです。ちなみに私がお寿司のネタで好きなものは、冬は「まだち」それ以外のときは「かにみそ」です。皆さんは何がお好きですか？



地域のみなさまとともに そば打ち体験

9月29日花川病院が所属している花川南睦美町内会主催の手打ちそば体験にお邪魔しました。

花川南睦美町内会のみなさまには、喬成会夏祭りで職員の着付けや出店の売り子をお願いしたり、睦美町内会の夏祭りに喬成会の太鼓をお招きいただくなど大変お世話になっております。

ご指導いただいたのは『いしかり手打ちそば同好会』のみなさま。今回のおそばは小麦粉2割、そば粉8割の二八そば（にはちそば）です。初めにデモで同好会のみなさまが説明を交えて一連の流れを教えてくださいました。

粉をふるいにかけて少しずつ水を加えながら混ぜてなじませます。丸くまとめたのし棒で伸ばし、丸い生地を角だして四角く伸ばしてたたみ、同じ太さに切ります。

文章にするとなんと簡単な説明ですが…やってみるとこれが難しい！まず、粉と水を馴染ませるのが大変です。そして、まとまりません。同好会の佐藤会長の助けをお借りしてまとまった生地を手で伸ばしていきまます。ある程度伸びたらしのし棒の登場です。

力加減を教わっていざ！自分で伸ばしてみたいびつなところを修正してもらい…たたんで切り始めます。うどんのようなおそばが出来上がりました…

完成後は、デモで同好会のみなさんが打った手打ちそばをかしわそばでいただきました。つるつるとして、おそばの香りがとても濃く感じました。おいしいおそばご馳走様でした。

我が家の中学生（撮影モデルに連れ出しました）が打ったうどんのようなおそばは、持ち帰ってざるそばでいただきました。噛みごたえがあり…、温かいおそばの時よりも一層おそばの香りを楽しめて、おいしくいただきました。

手打ちそばの体験は初めてでしたが、とてもわかりやすく教えてくださいました。花川南睦美町内会のみなさま、いしかり手打ちそば同好会のみなさま、大変お世話になりました。ありがとうございました。また、写真撮影にも快くご協力いただきまして、ありがとうございました。（石黒紀代美）



編集 後記

はなかわの風。平成18年7月1日の第1号発行から本号で通算22号となりました。足掛け7年です。このたび編集長の退任に伴い、はなかわの風、22号で最終号とさせていただきます。ながい間、ご愛読、ありがとうございました。来年からは新しい編集長、新しい広報誌でみなさんに花川病院の情報をお届けします。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

さて、私は地域連携相談センター長を務めておりましたが、12月31日をもって花川病院を退職することとなりました。17年間勤務いたしました。たくさんの思い出がいっぱいです。いままで出会ったすべてのみなさんに感謝して、次へとノブンを継ぎたいと思います。いままで大変お世話になりました。ありがとうございました。またどこかでお会いできる日を楽しみにしております。（綾部潤和）